【社外秘】

部署名	[redacted]
担当者名	[redacted]

実地調査報告書　（2020/01/14作成）

与信先名	[redacted]	新規区分	☐ 新規　☑ 既存	申請種類	☑ 予備審枠（☐ グループ包括）☐ 事前承認枠　☐ 商品枠　☐ 個別
物件	☑ 新車　☐ 中古車　☑ LB	実行予定台数	32台（内OAC入替0台）	本件における収益合計	74 千円
取組形態	☐ ML　☐ FL　☑ 割賦・クレジット　☐ MJ　☐ 協調　（☐ 与信・☐ 金利）☐ 承継（☐ グループ間承継）☑ その他［☑ 購入選択権・☐ 譲渡条件・（リースバック30台）］				
決裁事項	☐ 期間更新　☐ 新設　☑ 増枠　☐ その他　（　　　）				
引合経緯	☐ プロパー　☐ ミリオン（　　　）　☐ 提携先（　　　） ☐ その他（　　　）　☑ Co−Work［☑ ORIX　☐ 不動産　☑ その他（CO-WORK期間切れORIX了承済。）］				
本件申請内容	☐ OAC入替　☐ レッシー増車　☑ 社有車入替　☐ 他社入替　☐ AMS　☐ ETC　☑ その他（　リースバック30台　）				
導入状況	☑ ERG　☐ AMS　☐ ETC　☐ BPO　☐ テレマ　☑ レンタカー　☐ 任意保険有（OAC分担00%）　☑ その他（オートビット:車両買取　）				
保全	☐ 無　☑ 代取連保　☐ 法人保証　☐ その他　（リースバック以外の取組は代取連保取得　）	本件含む車両保全率	2019/3時点105%→本件取組にて120%		

本件与信金額	31,000 千円	過去OACピーク残高	143,867 千円（2016/03）

「本件含む」与信残高	※	与信先「単体」	与信先「グループ」
オートセグメント	表面	118,835 千円	130,597 千円
	実質	118,835 千円	130,597 千円
オリックスグループ（オートセグメント含む）	表面	665,328 千円	706,222 千円
	実質	677,735 千円	711,164 千円

デフォルト確率	1.276% (06)2019.11
割止情報(前回実調時以降)	☑ 無　☐ 有　（有の場合、下記に詳細記入）
懸念情報（ASF）	☑ 無　☐ 有　（有の場合、下記に詳細記入）

与信先　上場区分 ： ☑ 非上場　☐ 上場　［☐ 東証/大証/名証　☐ その他　（　　　）］

［決算内容］　※上場企業以外はCFの記載不要　（百万円）

☑ 単体　☐ 連結	2018/03	2019/03	(前期比)	19/11TB	(前期比)
売上高	7,567	7,704	101.8%	5,485	71.2%
月商	631	642	101.7%	686	106.9%
営業利益	197	237	120.3%	199	84.0%
経常利益	110	151	137.3%	135	89.4%
当期利益	67	53	79.1%	129	243.4%
減価償却費	314	274	87.3%	196	71.5%
現預金	1,128	858	76.1%	820	95.6%
棚卸資産	4	2	50.0%	3	150.0%
有形固定資産	1,180	1,325	112.3%	1,359	102.6%
売掛債権	838	808	96.4%	917	113.5%
買掛債務	585	570	97.4%	627	110.0%
借入金	2,316	2,150	92.8%	2,676	124.5%
(借入金月商倍率)	(3.7ヶ月)	(3.3ヶ月)	–	(3.9ヶ月)	–
自己資本合計	38	90	236.8%	219	243.3%
(自己資本比率)	(1.0%)	(2.4%)	–	(4.9%)	–
負債・資本合計(総資産)	3,877	3,824	98.6%	4,508	117.9%
営業CF			–		–
投資CF			–		–
財務CF			–		–

［与信先決算書入手］　● 可　○ 不可

［TB(残高試算表)］　● 可　○ 不可

［ヒアリング］　● 可　○ 不可

[業績コメント]

※2020/1に2019/11TB8ヶ月を掲社代取から回収及びヒアリング。

・2018/3期、増収増益。要因は前回ヒアリング同内容で、計画外にモトックス売上が上がった事、梅の花がすし半を買収した事により売上伸長。コノミヤ、ユニオンも微増。

・2019/3期、増収減益。概ね売上は計画通りに推移したもの。増収要因は主要取引先のゼンショーでの輸入貨物増加とはま寿司、ビッグボーイ、牛庵、焼肉一番等100店舗への配送が既存業者から荒木運輸へ移管された事によるもの。

但し、収益面は台風による被害でコンテナ引取に係る延長料金デマレージ費用86M計上した事が減益要因となった。但し、86Mのうち37Mはゼンショーグループにて負担する事になった為、2020/3期に利益計上する予定。

・2020/3期、増収増益見込み。計画では売上8,400M、経常利益200M程度の着地見込み。増収要因は、遠藤照明やゼンショーグループ、和幸等の新規案件獲得によるもの。尼崎物流センター、南港物流センターが稼働(ORIXにてラック・フォークリフト・冷蔵冷凍設備割賦契約取得)も増収要因となる。収益面は低位ながら一定の利益率は維持。上記記載のデマレージ費用の戻りもあって増収見込。引き続き業容拡大に伴い人員確保に注力して、傭車費削減と効率性を上げて収益性UPを図っていくのが当面の方針。

[財務内容コメント]

※2020/1に2019/11TB8ヶ月を掲社代取から回収及びヒアリング。

借入月商倍率3.9ヶ月。借入金のうち、300Mは資本性ローンで元本期日一括(期間10〜15年、期日2026/3〜5)。

直近の借入については、丸伊運輸㈱の東大阪営業所事業の買収資金として日本政策金融公庫80M、みずほ銀行100M(期間8年)。

また業容拡大に伴い、運転資金として短期長期借入を追加調達があり増加。内訳は、『預金・借入金残高一覧表』を添付しておりますので、ご参照ください。

年間約定弁済額は約420M。また自主的に金融機関すべてに対し自主的に四半期毎の業況説明会を実施継続しており、業容良化傾向から各金融機関積極的に支援している状況。

自己資本比率4.9%。経常収支比率105.3%。

親会社・中核会社　社名 ：［

［決算内容］　※上場企業以外はCFの記載不要　（百万円）

☐ 単体　☐ 連結			(前期比)		(前期比)
売上高			–		–
月商			–		–
営業利益			–		–
経常利益			–		–
当期利益			–		–
減価償却費			–		–
現預金			–		–
棚卸資産			–		–
有形固定資産			–		–
売掛債権			–		–
買掛債務			–		–
借入金			–		–
(借入金月商倍率)	–	–	–	–	–
自己資本合計			–		–
(自己資本比率)	–	–	–	–	–
負債・資本合計(総資産)			–		–
営業CF			–		–
投資CF			–		–
財務CF			–		–

★<与信先と再生コンサル㈱S.O.Wとの係争について:2019/8終結>

・2017/3の荒木運輸株主総会にて荒木運輸ロジカルサポート(与信先の持株会社)から50Mの出資を受けることを審議し、少数株主であったS.O.Wが反対したものの賛成多数で可決。オリックスからの融資金50Mを原資に増資完了した。その直後、特別支配株主になった荒木運輸ロジカルサポートがS.O.Wに対して申し入れた株式の買取(価格6M)を巡りS.O.Wにより異議申立てが提訴されたもの。また2018/6には増資により損害を被ったとしてS.O.Wから荒木代取を被告人とする損害賠償請求がなされた。

・審問を経て2019/8に荒木運輸がS.O.Wに和解金40.5Mを支払い、終結。

★グループ会社について

<荒木運輸ロジカルサポート㈱>

荒木運輸㈱の持ち株会社。経営コンサルタント業として2017年設立。上記S.O.Wを排除する際に活用。現在の売上は荒木運輸㈱への経営指導料のみ。

外部借入金はORIXのみ。荒木運輸㈱に対して行った増資資金をファイナンスしたもの。返済については荒木運輸㈱から得ているもの。

<㈱ウエノコーポレーション>

2018/6に荒木運輸が買収。ウエノコーポレーションの代取であった上野氏と荒木代取は親戚関係。上野氏は69歳で、後継者がおらず、荒木代取に相談して荒木運輸㈱が買収することとなった。冷蔵冷凍車20台保有しており、食材配送保管を取り扱う。

2018/3期、2019/3期は、過去抱えていた負債等を一層する為、大きな赤字を計上。外部借入は全て返済して現状は上野氏2.3M、荒木運輸84Mのみ。

直近ではとんかつの和幸で増収基調との事。元々孫請け業務であったが、間の会社の対応が悪く、荷主とウエノコーポレーションが直請けとなり、利益率もUPしているとの事。また、直請けとなったことで全280店舗のうち100店舗程度の食材配送業務を請け、業容回復を図っているところ。2020/3期は売上600M、利益黒字となる見込みとの事。(荒木運輸㈱荒木代取ヒアリング)

[詳細情報]

2017/4/6債権譲渡登記･･･前回実調記載通り抹消処理完了、解消済。SOWから大阪商工信金へ借換実施の為であったが、財務内容コメントに記載通り、かわりの担保設定が出来た為、解消済み。

案件要旨

[本件引合経緯]

掲社代取引合。購入選択権型リースバック取組30台と新車クレジット2台大型冷蔵冷凍車と中型冷凍車を見込み、予備審枠31,000千円申請致します。OAC本件取組目的は、前年同様の入替取引をしつつ保全維持する為のものです。

[導入目的]

・既存取引先で利用中の社有車代替2台。ダイレクトクレジット60回、TR1.5%（粗利0円）

・購入選択権型リースバック取組の目的は自動車税平準化と保全維持目的。

30台の条件：24ヶ月、TR4.45%、購入価格300千円、オートトレーディング部時価査定額40,000千円、RV=購入価格10%=行使価格。粗利11千円。

[与信先概要]

創業53年の物流業者。トラック保有台数280台(うち冷蔵冷凍150台)。4温度帯倉庫(常温・定温・冷蔵・冷凍)を保有しているのが強み。前代表(現代取実父)時代の過剰な設備投資により資金繰り悪化して2002年に代取交代。日本政策投資銀行・近畿大阪・NECキャピタルの3行シンジケートローン計12億による支援を受けて2010年に私的整理を行い第二会社として再建。

主要取引先は、ゼンショーグループ（すき家、なか卯を展開の食品卸）、モトックス（CIA66p、酒類卸）、コノミヤ（CIA55p、スーパー）。3社向け売上が50%以上を占め、大手中心に営業基盤構築。業容拡大基調維持。

[株主/(出資比率)]　荒木運輸ロジカルサポート･･･100%

[案件ポイント/担当者所見]

【業績】2019/11TB確認、業容概ね計画通り堅調推移。2020/3期は増収増益着地予定。

荒木運輸本社倉庫内にゼンショーグループのセントラルキッチンを置いて加工したものを管理保管や配送を一括で請け負っており、他の物流業者と競争とならない状況を確立している。主要取引先であるゼンショーグループとの取引は今後もさらに拡大していく見込み。

収益面については、2019/3期減益は業績コメント通り台風の影響による一過性のもので、2020/3期は経常利益200M予定。外国人技能習得制度を活用して庫内作業員を確保する等、収益性UP施策にも注力しており、収益性向上見込みあり。

【財務内容】2拠点の新物流センター業務開始の為やM&A等で借入増加も、財務内容コメント通り金融機関の支援体制は良好な様子。当面の維持力はあるものと思料。

【取引実績】OAC取引歴9年、取扱額約500M、支払実績約425M、支払問題無。AMSETCコストにて敗退。テレマNAUTO提案もデジタコカメラ一体型を2018年導入済で現状入替検討できず。2019年オートビット同行により車両買取取引開始、2019年実績は4台粗利150千円。2020年は20台買取を見込む。

・過去掲社再建時にORIXは保険料ローンで支援して、OACはリースバックにて支援した経緯から、ORIXグループへの恩義を感じて頂いている先。金融機関からの調達に苦慮しなくなった今では、OACは1万円LBを毎年更新、追加して保全率を100%維持できる範囲内で新車入替増車案件を数台契約している状況。

【保全率】本件含む全体保全率は120%。時価与信額差異プラス26.3M(月落リース料約2.5M)。LBが約定通り終了したとしても、本件取組後の保全率推移は、契約時120%、12ヶ月後108%、24ヶ月後96%、36ヶ月後144%。

【担当所見】上記通り当面維持力ある先と思料。本件取引条件は収益低いものの、保全維持する事が主たる目的。継続的な取引関係を維持するためにも対応致したく。

[前回決裁案件について] [illegible]お願い致します　☐ 無　☑ 有

2019/11ORIX予備審『設備割賦案件』･･･ラック、フォークリフト、冷蔵冷凍庫割賦取組が一部保全不足の為、本件限度。→本件はOAC取組全体保全率を100%以上を維持、強化できる取組であり、対応致したく。

導入状況

☐ 次頁あり

与信先保有台数			280 台	
取組内容	OAC契約車両	リース・割賦	81 台	28.9%
		MJ	0 台	0.0%
	AMS		0 枚	0.0%
	ETC		0 枚	0.0%
	BPO		0 台	0.0%
	テレマ		0 台	0.0%
	カーシェアリング		30 口	
競合先	☐ 無　☑ 有	（商工中金リース、ヤマト、みずほ系他）		